

実験動物医学

NO.55/2020.8

Japanese Association for Laboratory
Animal Medicine (JALAM)

日本実験動物医学会
事務局 (株) アドスリー内
〒164-0003 東京都中野区東中野4-27-37
TEL. 03-5925-2840, FAX. 03-5925-2913
URL <https://jalam.jp/htdocs/>

主な内容

- 巻頭言..... 2
- 学会案内 (学術集会委員会) 第163回日本獣医学会学術集会 4
- JCLAM (JALAM共催) ウェットハンド研修会案内..... 5
- 2020-2021年度総会開催案内 6
- 理事会報告..... 7
- 委員会報告
 - 1. 実験動物学教育委員会14
 - 2. 学術集会委員会14
 - 3. 情報・編集委員会14
 - 4. 研修委員会14
 - 5. 前島賞選考委員会15
 - 6. 実験動物法規等検討委員会15
- 日本実験動物医学専門医協会 (JCLAM/IACLAM)
 - 1. 実験動物医学専門医協会 (JCLAM) からの挨拶.....16
 - 2. 2020-2021年度総会開催案内.....18
 - 3. 第14回理事会報告18
 - 4. 2020-2021年度JCLAM専門医認定審査・専門医資格更新
スケジュール18
 - 5. IACLAM19
- JCLAM委員会報告
 - 1. 総務部20
 - 2. 認定委員会20
 - 3. 試験問題作成委員会21
 - 4. 試験実施委員会21
 - 5. 試験問題検討委員会21
 - 6. 学術委員会21
 - 7. 研修委員会22
 - 8. 国際渉外委員会22
 - 9. レジデントプログラム委員会23
 - 10. 将来検討委員会23
 - 11. 認定試験ワーキンググループ23
- 特集1「人脈そして実行と実現」.....24
- 特集2「学位取得のススメ」.....27
- 事務局便り 会費納入状況とお願い.....30
- 編集後記.....30

巻 頭 言

「新型コロナウイルス感染拡大下での学会活動（その2）」

北海道大学大学院獣医学研究院

安居院 高志

JALAM News Letter前号（No.54/2020.4）で「新型コロナウイルス感染拡大下での学会活動」というタイトルの巻頭言を書かせて頂きました。残念ながら9月に予定されていた日本獣医学会も新型コロナの感染が収まらず対面式の学会は開催されないことになりましたので、同じタイトルで（その2）とした巻頭言を書かせて頂きます。

9月の対面式の獣医学会が開催されませんので、昨年つくばの総会でお約束した委員会活動計画の多くが実行できなくなっております。そのような中でも司宰機関の山口大学では一般演題と一部のシンポジウムについてWeb開催を行うことにしました。それを受けて、学術集会委員会ではシンポジウムは中止としましたが、一般演題のプログラムの作成を行いました。前島賞も募集することに致しました。前島賞選考委員会では例年通り前島賞の選考を行います。毎回学会前後に開催しておりますウェットハンド研修会は事業主体の実験動物医学専門医協会（JCLAM）が中止を決定しましたので、JALAMとしても支援は行わないことになっております。そのような中でも、理事及び監事の任期が9月の総会で切れるために、予定通り理事選挙を行いました。立候補及び投票頂いた会員の方々に感謝申し上げます。当選された新理事候補者の方々にはこれから3年間JALAMの学会活動を担って頂くこととなります。どうぞ宜しくお願い申し上げます。

さて、私事になりますが、今回の理事選挙には立候補致しませんでした。理由は理事5期15年間、うち3期9年間会長を務めて参りましたので、そろそろ引退し後進に道を譲るべきと決断したからであります。従いまして、この巻頭言を執筆するのもこれが最後となります。そこで紙面をお借りして退任のご挨拶を簡単に致したいと思います。

JALAMは1993年に日本実験動物医学研究会として産声をあげました。目的は「実験動物医学の研究と教育の推進」であり、初代会長として慶應義塾大学医学部、前島一淑先生、事務局は日本獣医畜産大学実験動物学教室で発足致しました。しかしこの「実験動物医学の研究と教育の推進」の主体は米国で確立されておりました実験動物医学専門医認定制度を我が国にも立ち上げることでした。1997年に笠井憲雪前会長を委員長とする認定制度検討委員会が発足し、翌年から認定制度が始まりました。この当時は専門医（当時は認定医と呼称）を認定する認定委員会、認定医を取得するための教育セミナーと学会の一般演題、シンポジウムの企画を担当する学術集会委

員会、獣医学部における実験動物学の教育を充実させるための実験動物学教育委員会、メーリングリストやホームページを担当する情報委員会、そしてこのJALAM News Letterを発刊する会報編集委員会で構成されていました。その後、動物実験の場において欧米と同じように獣医師の役割を明確にするよう政府に働きかける実験動物法規等検討委員会が設立、専門医の研修を担当する研修委員会が学術集会委員会より独立、情報委員会と会報編集委員会が合併し情報・編集委員会となり、前島初代会長から頂いた多額の寄付金を原資とした前島賞の設立とその選考のため前島賞選考委員会が設立され現在に至っています。こうして振り返ってみますと驚くほど長い時間を実験動物医学の発展のために、理事、委員の先生方、会員の皆さんと過ごしてきたものと我ながら感心しております。

ちょうどコロナのお陰で一息つけたのかもしれませんが。コロナのお陰で学会活動もアフターコロナに適応していかなければならないでしょう。オンライン会議やオンライン学術集会などはその一つになるかもしれません。動物実験が続く限り実験動物医学も発展していかなければなりません。来季から執行部を担当される新理事の先生方にはこの流れを引き継ぎ、当会の益々の発展を支えて行って頂きたいと思っております。長いことお世話になりました。

学会案内

(学術集会委員会)

日本獣医学会関連の日程

第163回日本獣医学会学術集会

会 期：2020年9月14日（月）～ 30日（金）

会 場：山口大学 吉田キャンパス【Web開催】

（〒753-8511 山口県山口市吉田 1677-1）

- **日本実験動物医学会（JALAM）総会**

2020-2021年度総会を2020年9月に会員メーリングリストにより行う。

- **JALAM理事会**

日時：2020年9月2日（水）9:00～11:00

場所：Zoom会議として実施する

- **JALAM一般演題発表**

Web開催として実施されます。

- **JALAM前島賞・功労賞選考委員会**

9月30日（水）以降にZoom会議等として実施予定。

下記のイベント・委員会は中止となりました。

- JALAMシンポジウム
- JCLAM/JALAM研修委員会
- JALAM教育委員会
- JALAM情報・編集委員会
- JALAM法規等検討委員会
- JALAM学術集会委員会
- 日本実験動物医学専門医協会（JCLAM）認定試験
- JCLAM総会
- JCLAM理事会
- JCLAMフォーラム
- JCLAM試験問題作成委員会
- JCLAM将来検討委員会
- JCLAM認定試験WG
- JCLAM認定委員会
- JCLAM総務部会
- JCLAM試験問題検討委員会
- JCLAM国際渉外委員会
- JCLAM試験関連委員会合同会議
- JCLAMレジデントプログラム委員会
- JCLAM試験実施委員会
- JCLAM学術委員会
- ウェットハンド研修会
- エクスカーション

JCLAM（JALAM共催）ウェットハンド研修会案内

新型コロナウイルス感染症拡大により、今年度のウェットハンド研修会は2回とも中止となりました。受講予定の皆様には、大変ご迷惑をおかけしました。今後の開催については、メール、HP等でご案内いたします。

2020年度（令和2年度）日本実験動物医学専門医協会ウェットハンド研修会

第一回目：開催中止

「II. イヌ・ブタの獣医学的管理」

日程：2020年5月30日(6月21日)（土）10：00～17：00

2020年5月31日(6月22日)（日） 9：00～16：40

場所：北海道大学 獣医学研究院 獣医学部門（〒060-0818 札幌市北区北18条西9丁目）

アクセス：<https://www.vetmed.hokudai.ac.jp/access/>

定員：20名

第67回日本実験動物学会総会の中止さらには国内では緊急事態宣言の発出がなされました。2020年度第一回ウェットハンド研修会の開催につきましては、開催地の選定および参加希望者のアンケートによる日程の調整など対応を図ってまいりました。

しかし、受講者および関係者の健康・安全面を第一に考慮し、本研修会の開催を断念中止と決定させていただきました。

第二回目：開催中止

日程：2020年8月27日（木）

2020年8月28日（金）

場所：岡山理科大学 今治キャンパス（〒794-8555 愛媛県今治市いこいの丘 1-3）

定員：20名

新型コロナウイルス感染症の影響により、第二回ウェットハンド研修会も中止となりました。

2020-2021年度総会開催案内

2020-2021年度総会は、第163回日本獣医学会学術集会（山口大学）において開催される予定でしたが、学術集会の現地開催が中止されたことを受け、8月31日（月）にZoom会議として実施いたします。次号（No. 56）で報告いたします。

日本実験動物医学会 2017-2018～2019-2020年度役員会および委員会

<理事・監事>

会長（渉外担当理事兼任）	安居院 高志	（北海道大学）
副会長	池 郁生	（理化学研究所）
理事（会計・事務局担当）	角田 茂	（東京大学）
理事	久和 茂	（東京大学）
理事	佐々木 宣哉	（北里大学）
理事	下田 耕治	（慶応義塾大学）
理事	鈴木 穂高	（茨城大学）
理事	古市 達哉	（岩手大学）
理事（庶務担当）	森松 正美	（北海道大学）
監事	黒澤 努	（鹿児島大学）
監事	橋本 道子	（アステラス製薬）

<各種委員会委員長>

学術集会委員会	佐々木 宣哉	（北里大学）
研修委員会	久和 茂	（東京大学）
実験動物学教育委員会	古市 達哉	（岩手大学）
情報・編集委員会	鈴木 穂高	（茨城大学）
前島賞選考委員会	池 郁生	（理化学研究所）
実験動物法規等検討委員会	下田 耕治	（慶応義塾大学）

理事会報告

2019-2020 年度第 2 回日本実験動物医学会理事会議事録

日 時： 2020 年 4 月 24 日（金）～6 月 15 日（月）

場 所： 理事会メーリングリストを用いた会議

出席者： 安居院、池、角田、久和、佐々木、下田、鈴木、古市、森松（以上理事）、
黒澤、橋本（監事）

欠席者： なし

議題

1. 令和 1-2 年度決算報告（案）について

- 角田会計担当理事より令和 1-2 年度所属研究団体収支決算報告書（案）が提示され、了承された。（資料 1）

2. 令和 2-3 年度事業計画（案）及び予算（案）について

- 角田会計担当理事より令和 2-3 年度所属研究団体収支予算書が提示され、了承された。（資料 2）
- 森松庶務担当理事より令和 2-3 年度所属研究団体事業計画書（案）が提示され、若干の修正の後了承された。（資料 3）

3. 選挙管理委員会委員の選任

- 安居院会長より、選挙は前回同様郵送で行うこと及び下記の選挙管理委員候補者が提示され、承認された。
高木利一 会員 （委員長、再任、日本 SLC（静岡市））
長沼佑季 会員 （再任、アステラス製薬（つくば市））
林元詩織 会員 （新任、JT（横浜市））

4. 秋の獣医学会時の前島賞の募集について

- 獣医学会の一般演題が例年と違う方式で行われることになったため、前島賞の募集を行うかどうか審議したが、最終的に前島賞の募集を行うこととなった。

5. 秋の獣医学会時のシンポジウムの企画について

- 獣医学会が対面式の開催から Web 開催になったことにより、佐々木学術集会委員会委員長より今回はシンポジウムの企画を行わないことが提案され、了承された。

6. 事務局及び各委員会からの報告

- 事務局、角田理事より、会員数の現状が下記の通り報告された
2020.5.31 時点での会員数：407 名
2019.8.1-2020.5.31 の入会者：28 名（うち学生 6 名）
（2018 年度の「次年度入会希望者を含む」）
2019.8.1-2020.5.31 の退会者：15 名（うち会費滞納による退会処理数：9 名）
委員会からの報告は特になかった。

7. その他

- 特になし

前回理事会から今回理事会までの間に ML で下記の審議を行い、下記の通りに決した。

1. 日本動物実験代替法学会第 33 回大会より後援の依頼があり、審議の結果後援することが了承された。

以上

2019-2020年度 決算報告				
(2019年 8月 1日～2020年 7月31日)				
1) 収入の部				
勘 定 科 目	予算額	決算額	備 考	伝票番号
1. 所属研究団体費	274,850	274,850	対象事業経費決算: 228,312円 (余剰金: 46,538円)	
2. 受取会費	982,500	732,500		No.1
3. 集会参加費	0	0		No.
4. 刊行物収益	0	0		No.
5. 雑収入	20	320,005	みずほ銀行利息(5円)、誤振込(320,000円)	No.1
6. 前年度繰越金	1,976,056	1,976,056		No.
				No.
収入金額合計 (A)	3,233,426	3,303,411		
2) 支出の部				
勘 定 科 目	予算額	決算額	備 考	伝票番号
1. 諸謝金	133,644	86,822	獣医学会JALAMシンポジウム 謝金66,822円(3名) JALAMニュースレター執筆 謝金20,000円(2名)	No.2
(内 源泉所得税)	(13,644)	(8,864)		
2. 旅費交通費	125,000	80,636	獣医学会JALAMシンポジウム 旅費80,636円(3名)	No.6
3. 消耗品費	10,000	0		
4. 通信運搬費	10,000	2,098		No.1,7
5. 会議費	20,000	0		No.
6. 集会開催費	0	0		No.
7. 印刷製本費	0	891		No.7
8. 表彰関連費	60,000	60,854	前島賞賞金(守屋大樹: 50,000円)、トロフィー代 (10,854円)	No.8
9. 雑 費	616,000	801,277	HPサーバーレンタル(55,924 円)、SSL設定(32,400円)、 事務業務委託費(407,000 円)、誤振込返還(300,000 円)	No.9
10. 共催分担金	400,000	215,905	JCLAM主催研修会共催費	No.10
支出金額合計 (B)	1,374,644	1,248,483		
差額(C)=(A)-(B)	1,858,782	2,054,928		

2020-2021 年度 所属研究団体 事業計画書

2020 年 月 日

2020-2021 年度実験動物分科会(日本実験動物医学会)の事業計画について、下記のとおり申請いたします。

申請者	<p><u>所属研究団体名 日本実験動物医学会</u></p> <p>会 長: 安居院高志 印</p> <p>所 属: 北海道大学大学院獣医学研究院</p> <p>住 所: 札幌市北区北 18 条西 9 丁目</p> <p>E-mail: agui@vetmed.hokudai.ac.jp</p> <p>Tel: 011-706-5106</p> <p>Fax: 011-706-5106</p>
<p>1. 学術集会の開催(日本獣医学会学術集会とそれ以外に分けて、内容、時期、場所等について具体的に記載してください)</p> <p>(1) 日本獣医学会学術集会 なし</p> <p>(2) それ以外 日本実験動物学会総会 内容: 実験動物医学に関するシンポジウムの開催 時期: 第 68 回日本実験動物学会会期中(2021 年 5 月) 場所: タワーホール船堀(東京都)</p>	
<p>2. 会議(内容、時期、場所等について具体的に記載してください)</p> <p>(1) 2020-2021 年度総会 内容: 当会事業報告・事業計画及び決算・予算等に関する審議、報告など 時期: 2020 年 9 月頃の予定 場所: なし(メールあるいは Web による開催を予定)</p> <p>(2) 2020-2021 年度第 1 回理事会 内容: 当会事業報告・事業計画及び決算・予算等に関する審議、報告など 時期: 2020 年 9 月頃の予定 場所: なし(メールあるいは Web による開催を予定)</p> <p>(3) 2020-2021 年度第 2 回理事会 内容: 当会事業報告・事業計画及び決算・予算等に関する審議、報告など 時期: 第 68 回日本実験動物学会会期中(2021 年 5 月) 場所: タワーホール船堀(東京都)</p>	

(4)学術集会委員会

内容:学術集会委員会の事業報告・事業計画に関する審議、報告など

時期:2020年9月頃の予定

場所:なし(メールあるいはWebによる開催を予定)

(5)情報・編集委員会

内容:情報・編集委員会の事業報告・事業計画に関する審議、報告など

時期:2020年9月頃の予定

場所:なし(メールあるいはWebによる開催を予定)

(6)研修委員会

内容:研修委員会の事業報告・事業計画に関する審議、報告など

時期:2020年9月頃の予定

場所:なし(メールあるいはWebによる開催を予定)

(7)実験動物学教育委員会

内容:実験動物学教育委員会の事業報告・事業計画に関する審議、報告など

時期:2020年9月頃の予定

場所:なし(メールあるいはWebによる開催を予定)

(8)実験動物法規等検討委員会

内容:実験動物法規等検討委員会の事業報告・事業計画に関する審議、報告など

時期:2020年9月頃の予定

場所:なし(メールあるいはWebによる開催を予定)

(9)前島賞選考委員会

内容:前島賞選考委員会の事業報告・事業計画に関する審議、報告など

時期:2020年9月頃の予定

場所:なし(メールあるいはWebによる開催を予定)

3. 会誌刊行

当分科会の会誌である JALAM NEWS LETTER「実験動物医学」について、No.55/2020年8月、No.56/2021年4月を情報・編集委員会が担当して編集し、刊行する。

4. 表彰と推薦

第163回日本獣医学会の開催時に、日本実験動物医学会前島賞表彰規程に基づいて、実験動物医学に関し特に優れた業績をあげた本学会会員を顕彰し、第17回前島賞を授与する。当分科会の前島賞選考委員会が受賞候補者を選考し、会長が理事会に諮って受賞者を決定する。

5. その他

(1)ホームページを利用した外部への情報提供及び会員間限定の情報共有手段の確保

1)外部への情報提供

一般公開ホームページ:<https://jalam.jp/htdocs/>

2)HP 内に会員間限定の情報共有するためのスペースを確保

(2)実験動物医学専門医協会(JCLAM)が主催するウェットハンド研修会への協力
JCLAM が主催する専門医取得のためのウェットハンド研修会を共催という形で支援し、分担金を支出する。

令和3年ウェットハンド研修会
第1回 開催日:令和3年5月予定
場所:未定
募集人数 :未定

※頁は適宜増やしてください。

※「所属団体研究費」以外の収入により実施する事業については、下線を付すること。
※頁は適宜増やしてください。

2020 年 月 日

日本実験動物医学会 会長 氏名 安居院 高志 印

日本実験動物医学会 事務局 氏名 角田 茂 印
担当理事

2020-2021年度 所属研究団体収支予算書			
(2020年8月1日～2021年7月31日)			
所属研究団体名：			
1) 収入の部			
勘定科目	金額 (円)	備考	
1. 所属研究団体費	204,832	対象事業費251,370円だが、前年度余剰金46,538円があるため、差額として計上	
2. 受取会費	982,500	会員会費(315口×3,000、25口×1,500円 滞納分も含む)	
3. 集会参加費	-		
4. 刊行物収益	-		
5. 雑収益	10	みずほ銀行、ゆうちょ銀行利子	
6. 前年度繰越し金	2,054,928		
収入金額合計 (A)	3,242,270		
2) 支出の部			
勘定科目	金額 (円)	備考	
1. 諸謝金	111,370	実験動物学会JALAMシンポジウム謝金66,822円(22,274円×3) JALAMニューズレター執筆謝金44,548円(11,137円×4)	
(内 源泉所得税)	(11,370)		
2. 旅費交通費	80,000	実験動物学会JALAMシンポジウム旅費80,000円	
3. 消耗品費	10,000		
4. 通信運搬費	10,000	総会ハガキ送付代含む	
5. 会議費	20,000	会議室使用料	
6. 集会開催費	-		
7. 印刷費	-		
8. 表彰関連費	60,000	前島賞賞金、トロフィー	
9. 雑費	595,000	HPサーバーレンタル(56,000円)、SSL設定費(35,000円)、事務業務委託費(400,000円)、理事選挙費用(84,000円)、その他(20,000円)	
10. 分担共済金	200,000	JCLAM主催研修会共催費(200,000円×1)	
支出金額合計 (B)	1,086,370		
差額(C)=(A)-(B)	2,155,900		

委員会報告

1. 実験動物学教育委員会

委員長：古市達哉（岩手大）

委員：横須賀 誠（副委員長、日獣大）、安居院高志（北大）、浅野淳（鹿児島大）、伊豆弥生（岡山理科大）、越後谷裕介（日大）、大杉剛生（酪農大）、岡田利也（大阪府大）、角田茂（東大）、木村透（山口大）、久和茂（東大）、佐々木宣哉（北里大）、佐々木隼人（北里大）、佐藤雪太（日大）、竹内崇師（鳥取大）、田中あかね（東京農工大）、塚本篤士（麻布大）、富岡幸子（鳥取大）、中村紳一郎（麻布大）、森松正美（北大）

- (1) 実験動物学教育委員会メーリングリストを利用して、講義・実習に関する意見交換を行った。
- (2) 新型コロナウイルス感染拡大に伴い、第 163 回日本獣医学会学術集会は WEB 開催になったことから、学会開催期間中に行っていた対面による委員会は中止とする。

2. 学術集会委員会

委員長：佐々木宣哉（北里大）

委員：岡村匡史（副委員長、国立国際医療研究センター）、北村 浩（酪農大）、花木賢一（感染研）、佐々木隼人（北里大）、越後谷裕介（日大）、小久保年章（放医研）、綾部信哉（理研）

- (1) 教育講演・シンポジウムの中止を決定した。
- (2) 2020 年 9 月以降、新委員会が発足された後にメール会議を開催する予定。

3. 情報・編集委員会

委員長：鈴木穂高（茨城大）

委員：伊藤麻里子（副委員長、名古屋大）、綾部信哉（理研）、大沼健太（日本たばこ産業）、和颯岳（ヤクルト）、近藤友宏（大阪府大）、明貝俊彦（岡山理科大）

- (1) JALAM NEWS LETTER 「実験動物医学」 No.54 (2020.4) を編集し、本学会ホームページ (HP) に掲載した。
- (2) 本学会 HP を改訂し内容を随時更新した。
- (3) JALAM-ML(jalam@umin.ac.jp)および会員 HP (<http://jalam.jp/htdocs/>)を管理運営した。

4. 研修委員会

委員長：久和 茂（東大）

委員：中村紳一郎（副委員長、麻布大）、岡村匡史（国立国際医療研究センター）、倉岡睦季（日獣大）、小久保年章（放医研）、今野兼次郎（ボゾリサーチ）、高木久宜（日本エスエルシー）、林元展人（実中研）、藤澤彩乃（東大）

- (1) 第 67 回日本実験動物学会総会・第 163 回日本獣医学会学術集会に合わせて、ウェットハンド研修会第 1 回・第 2 回を実施予定だったが、受講者および関係者の健康・安全面を第一

- に考慮し開催を中止した。
- (2) 今後の予定はメール、HP 等でお知らせする予定。

5. 前島賞選考委員会

委員長：池 郁生（理研）

委員：三好一郎（副委員長、東北大）、小野悦郎（九大）、加藤啓子（京都産業大）、鈴木樹理（京大）、杉山文博（筑波大）、中村紳一朗（麻布大）、山中仁木（信州大）

- (1) 2019-2020 年度 前島賞候補者の選考が 2019 年 9 月 11 日（水）に行われ、下記の守屋大樹会員が候補者として会長に報告された。
- 候補者：守屋大樹会員（大阪大谷大学）
- 研究課題：腫瘍細胞死誘導時の抗腫瘍免疫増強に DAMPs 分子を介した腫瘍浸潤樹状細胞の所属リンパ節への移行促進が関与する
- (2) 2020 年 10 月 1 日（木）にメールにて委員会開催予定。

6. 実験動物法規等検討委員会

委員長：下田耕治（慶應義塾大）

委員：大沢一貴（副委員長、長崎大）、笠井憲雪（東北大）、二上英樹（岐阜大）、武井信貴子（イナリサーチ）、横山政幸（武田薬品工業）

- (1) 新型コロナウイルス感染拡大に伴い、第 163 回日本獣医学会学術集会が WEB 開催となったことから、学会会場における対面式の委員会では中止した。

日本実験動物医学専門医協会 (JCLAM/IACLAM)

1. JCLAMからの挨拶

日本実験動物医学専門医協会

会長 黒澤 努

JALAM 日本実験動物医学会の一部である JCLAM 日本実験動物医学専門医協会を代表してご挨拶申し上げます。

前号でご報告した通り、私は JCLAM の親団体ともいえる IACLAM 国際実験動物医学専門医協会を代表して WVA 世界獣医師会の理事を務めております。WVA は理事が改選されますと、改選後の最初の総会にて理事承認という手続きがあり、その後ブリュッセルの本部にて理事会を開催するという段取りとなっておりました。ところが新型コロナウイルス禍によりニュージーランド、オークランドで開催されることとなっていた総会はインターネット上で行うこととなりました。インターネット上では種々の発表も行われ、関連会議、そして総会も行われました。そして現在もインターネット上での発表が続いております。一応このインターネット上の総会にて理事承認は議決されましたので、私も現在は正式に世界獣医師会の理事となっております。そこで次の段取りであります、新任理事による理事会が開催されることとなつてはいましたが、これもインターネット上で行われました。国際会議をこうしたインターネット上でやることの難しさを痛感しております。聞きなれた英語を話してくれる方のご意見は理解しやすいのですが、そうでない方のご発言を正確に理解するのは相当疲れます。英語を母国語とされている方々は私の Janglish できえ理解していただけるようですので、さほど苦痛なく会議を進行されているようです。さらに器械を使い慣れていない方はその調整方法もよく理解していないようで“Mute”にしてくださいと言っても、どのようにするかがわからず、さらにマイクの位置および音量の調節ができない方がいますと、理解するのが大変苦痛になります。たびたび聞き直すのも憚られ、他の方がその意見をまとめてくれてようやくなんといつていたのが理解できるということとなつてしまいます。皆様にはかような苦痛に耐えて仕事をしている大変さがあることはちょっと頭の隅に置いておいていただくと幸いです。時差の関係で日本では深夜に会議に参加することとなりますが、それも相まって、新型コロナウイルスに毒づきたくなくなるほどです。

さてその新型コロナウイルス禍ですが、我々に関係する面白い現象が発生しました。マスクの予防効果です。我々も現場を持っておりますと、手術用マスク、感染予防用のマスク、など種々の医療用のマスクは日常的に使っているわけですが、意外とその中身や性能については明確に認識していないことも多いように思われます。私はたまたま医療機器の安全性の国際標準作成の枠組み内で仕事をしておりますので医療用マスクについてもそれなりに知識はあります。一時は日本バイオセーフティー学会の理事を務めていたこともあり、いつも医療用マスクには関心を寄せていました。

今回の新型コロナウイルス禍の最初の社会問題はマスクの不足という形でやってまいりました。テレビでは連日、専門家なる方々が医療上の問題そしてマスクの不足について解説しておられましたが、私の耳を疑うような発言が次々と飛び出していました。さらにアベノマスクが出現するとうわ専門家たちは首相付度の極みともいえる、マスクの効能について言及しました。通常我々が使用する医療用マスクは大きく 2 分されます。着用している者からの呼吸による感染を防止するマスク（外科手術用マスクに代表されます）と ABSL3 などを使用する従事者を感染か

ら守るマスク（N95規格、FDA承認済みなど）です。これらはいずれも厳格な素材の規格、生産検査規格とその承認により我々は使用しているわけです。もちろんこれ以外にもマスクには種々あり、コンビニなどでも販売しているもの、家庭で手作りしたものなどもマスクではありますが、これらは医療用ではありません。当然どのくらいの性能であるかなどは調べていないのですからわからないわけです。アベノマスクはこの延長線上のものと思われれます。新型コロナウイルス禍が発生したとたん、一般市民は自分の健康を守るためマスク入手に走ったわけです。当然知識のある方々はN95規格などの感染防止効果が確認されたものを入手したはずですが、多くの一般市民はマスクの性能などは無視して、中には外科手術用マスクを着用して呼吸器からの感染防止を行おうとした方もいたようです。困ったのは医療機関です。これまで容易に入手出来ていたので十分な備蓄のないままにこうした医療用マスクは入手できなくなってしまいました。おそらく会員の先生方の中にも困惑された方がおられたと思います。そこでアベノマスクの登場です。おわかりのようにあれは医療用マスクではありませんし、性能試験をしたものでもありませんから、N95規格マスクのように着用者が呼吸器からの感染を予防することはほとんど期待できないものです。ところが付度した専門家といわれる方々が、新型コロナウイルスは飛沫感染する（空気感染はない、エアロゾル感染も考える必要はない）のでこうしたマスクは周辺の人々に感染を拡散させないのに効果があると言い出したのです。私もあわてて関連原著論文探しましたが、それを証明したものは見出せませんでした。さらに飛沫拡散防止用にマスクが必要となりますと、N95規格のマスクが良いなどという専門家まで現れて、例えばN95規格のマスクでも3M社のカップ型の8210とか折り畳みの1870Fとかではなく排気弁付きの9211などには言及しなくなってしまいました。当たり前ですが排気弁付きのN95規格のマスクは飛沫拡散効果は期待できません。大型クルーズ船ダイヤモンドプリンセス号の感染拡散の情報から、飛沫感染だけではありえまいと思っておりましたが、やがてたくさんの情報が出されますと空気感染もあり得ることがわかり、それまで専門家なる方々が説明していたマスクの意義についてはことごとく覆ることとなりました。さらにスーパーコンピューターを駆使して検討した結果としてウイルス感染、医療機器とは全く関係のない専門家の解釈まで出てくる始末です。生データは見ておりませんが、報道で伝わった情報から考えられるのは、70%以上の飛沫が排出され、マスクの周辺からも飛沫が排出される木綿マスクは感染防止にはほとんど効果がなく、不織布などでは木綿のマスクよりもやや飛沫排出予防効果は期待できるものの、適切な着用をしなければ、感染予防効果は減弱する、との結論になるかと思うわけです。かような新型コロナウイルス禍が発生した時の各門家集団の役割が気になるところですが、N95規格マスクに代表される医療機器の規格は米国の規格です、では我が国の医療用マスクの規格はどうなっているのか気になるところですが、我が国には医療用マスクはありません。労働安全性の観点から防塵用マスクの規格はN95規格と同等とされるDS2規格がありますが、これは医療用にどのように使えるかについては2020年6月になってから感染症研究所が、“品質を確認し、問題なければN95マスクと同等に扱う”と通知がだされたのが最初ようです。感染研は国立の研究所ではあるが、政府自体ではない。さらに各ユーザーは品質をどのように確認するのか、問題がないとはどのようなことを指すのかすら示されていない。こうした非常時の政府の重要な仕事はアベノマスクを調達して配布するのではなく、医療用マスクの規格などをきっちり作り、何をどのように使用すればリスクが下がるかを示すことではなからうかと考える次第です。

動物実験反対運動家の動向は新型コロナウイルス禍でどのようになっているかも気になるところですが、欧米での新型コロナウイルス感染者数、死亡者数の増大から、この対策として、特効薬の開発ないし、発見、およびワクチンの開発が重要なことは動物愛護家でさえよく理解できることです。とすると動物権利論に基づく動物実験反対運動家はどのようにこれまでの理論を展開するのが気になるところですが、ひとつは静かに待つという戦略があるようです。ただ気をつけなければならないのはわか実験動物福祉論者の出現です。動物実験が必要なことはわかったの

で、実験動物福祉に力を入れるべきだと。3RsのうちRefinementに力を入れるべきだと、まるで我々が前から主張していた動物実験の必要性、そして適切な動物実験の施行、とりわけ実験動物の福祉、苦痛の軽減を、かつての動物実験反対論者が展開し始めているようです。我々実験動物獣医師が社会から誤解を受けないよう、各人が理論構築をしっかりと行っておくことを期待しています。

2. 2020-2021年度総会開催案内

2020-2021年度総会は、第163回日本獣医学会学術集会（山口大学）において開催される予定でしたが、学術集会の現地開催が中止されたことを受け、誌上開催といたします。開催方法については、理事会で決定のうえ別途お知らせいたします。

3. 第14回理事会報告

第14回JCLAM理事会は、第67回日本実験動物学会総会にて実施の予定でしたが、学術集会の現地開催が中止されたことを受け中止となりました。

4. 2020-2021年度JCLAM専門医認定審査・専門医資格更新スケジュール

1. 2020-2021年度JCLAM専門医認定審査・専門医資格更新スケジュール

2020-2021年度認定審査事業は新型コロナウイルス感染症流行のため1年間凍結となりました。

2. 2021-2022年度JCLAM専門医認定審査・専門医資格更新スケジュール

2021-2022年度にJCLAM専門医認定を目指している方、および専門医資格更新を予定されている方は、JCLAMのWebsite (<http://plaza.umin.ac.jp/~jclam/AAAAAA/ja/index.html>)に掲載されています「認定規則」を確認の上、準備をお願いします。

1) 対象者

1-1) 専門医の認定試験を初めて受けられる方：

新規の審査申請は日本実験動物医学会（JALAM）の会員歴が3年以上であり〔2019年7月末日（2018-19年度）までに会員になり、2020-21年度分まで会費を納めていること〕、JCLAM認定規則の別表1に規定された基準を満たしている方が対象となります。会員歴の年数は各年度で計算します。

会計年度	会計年度の期間
2014-2015年度	2014年8月1日～2015年7月31日
2015-2016年度	2015年8月1日～2016年7月31日
2016-2017年度	2016年8月1日～2017年7月31日
2017-2018年度	2017年8月1日～2018年7月31日
2018-2019年度	2018年8月1日～2019年7月31日
2019-2020年度	2019年8月1日～2020年7月31日

1-2) 専門医認定資格の更新をされる方：

2020-2021年度認定審査事業が1年間凍結となったため、当初2020-2021年度更新予定だった

方が対象となります。

2000 年度認定	認定番号第 046, 047, 049, 050, 056, 057 号 (6 名)
2005 年度認定	認定番号第 065, 066 (2 名)
2010 年度認定	認定番号第 085 (1 名)
2015-16 年度認定	認定番号第 131~134 (4 名)
5 年以内に更新しなかった方	認定番号第 037, 126 (2 名)

2) スケジュール

審査申請書受付開始	2021 年 4 月を予定
筆記試験	2021 年 9 月 6 日 (月) 日本獣医学会 (酪農学園大学) を予定
認定日	2021 年 12 月を予定

スケジュールの詳細は、2020-2021 年度 JCLAM 総会にて決定します。

5. IAACLAM

1. 概要

IAACLAM (JCLAM、ACLAM、ECLAM、KCLAM より構成) の理事として JCLAM から、国際渉外委員会メンバーである矢野先生 (IAACLAM の事務長)、武井先生、花井先生の 3 名が参加し、オブザーバーとして黒澤会長が参加しています。

IAACLAM の活動は、①各協会の活動を相互に報告して全体の方向性を確認・作成していく、②IAACLAM 全体のプロジェクトについて進捗を協議しながら進める、という方法で実施しており、JALAM NL54 発行の後の期間では、IAACLAM の電話会議を 2020 年 5 月 8 日 (金) に開催しました。

2. 各トピックの進捗

(1) 会員数(2020 年 5 月時点)

ACLAM 1017 名、ECLAM 76 名、JCLAM 138 名、KCLAM 48 名

(2) IAACLAM の役員選任

IAACLAM の新役員として以下の人事が決まりました。

President: Michele Bailey (ACLAM), Vice-president: Seung Hyeok Seok (KCLAM),

Past president: Hilton Klein (ECLAM), Secretary general: Kazuo Yano (JCLAM)

(3) IAACLAM の活動方針作成 (Strategic Plan)

Strategic Plan の協議を行うため、2020 年 8 月に米国で面前会議を実施する予定でしたが、世界的な新型コロナウイルス感染症の拡大を受けて、ビデオ会議に変更して実施することになりました。

Strategic Plan を議論する基礎資料とするために、各協会代表メンバーおよび世界の実験動物医学に関するリーダーに IAACLAM の将来についてのアンケートを行いました。

(4) 実験動物医学専門医の技能とトレーニング

実験動物医学専門医として必要な技能について、IAACLAM メンバー協会内でのハーモナイズを検討してきました。今回、各協会の RDD (RDD : Role Delineation Document) を確認し、現時点で概ねハーモナイズできていると判断しました。IAACLAM の Web から各協会の Web に掲載された RDD にリンクできるようにすることとし、JCLAM の Web にも掲載しました。

(5) 安楽死法

Taskforce として、げっ歯類の CO₂ による安楽死法についてレビューを行ってきました。この度、その結果を論文としてまとめました。

(PV Turner, et al, Front. Vet. Sci., 22 July 2020 <https://doi.org/10.3389/fvets.2020.00411>)

JCLAM委員会報告

1. 総務部

部長：花井幸次（沖縄科学技術大学院大）

部員：桐原由美子（島根大）、大沼健太（日本たばこ産業）、小川祥司（大日本住友製薬）、武井信貴子（イナリサーチ）、浅野 淳（鹿児島大）、近藤友宏（大阪府大）、内山裕貴（BIKEN）

1) 部会開催

- ・ 2020年5月23日に開催予定の総務部会は、第67回実験動物学会総会の現地開催中止のため中止した。
- ・ 2020年9月に開催予定の総務部会についても、第164回日本獣医学会学術集会の現地開催中止のため中止する。

2) 活動報告

- ・ HP、会員ページ及びJCLAM関連のメーリングリストの維持・更新を継続して実施した。
- ・ 2019-2020年度 JCLAM会計決算を行い、監事に監査を要請した。
- ・ 第164回日本獣医学会学術集会（酪農学園大学）における非所属研究団体集会申請書を提出した。

2. 認定委員会

委員長：鈴木 真（沖縄科学技術大学院大）

委員：岡村匡史（副委員長、国立国際医療研究センター）、中井伸子、三好一郎（東北大）、横山政幸（武田薬品工業）、伊藤麻里子（名古屋大）、浅岡由次（塩野義製薬）

1) 委員会開催

- ・ 第67回日本実験動物学会総会開催時の2020年5月24日（日）10:00～11:00に委員会を予定したが、Web開催となったため、開催しなかった。
- ・ 第163回日本獣医学会学術集会も同じくWeb開催となったため、委員会を開催しない。

2) 活動報告

- ・ 2020-2021年度の認定試験は実施しない。また、専門医資格更新及び生涯専門医への資格移行についても実施しないため、資格認定に関する活動は行っていない。

3) 実験動物医学専門医資格認定単位対象プログラム

I. JCLAM フォーラム

第163回日本獣医学会学術集会では開催しない。

II. JALAM シンポジウム

第163回日本獣医学会学術集会では開催しない。

III. 専門医の認定

JALAM NEWS LETTER 54号でもお知らせしましたが、本年度の認定に関する活動は凍結とし、この1年間は専門医としての活動期間に含めないこととします。なお、各委員会活動や学会活動等において獲得されたポイントは累積することができます。

3. 試験問題作成委員会

委員長代行：鈴木 智（大鵬薬品工業）

委員：高橋 研（残留農薬研、上席副委員長）、瀬戸山健太郎（鹿児島大、副委員長）、石坂智路（第一三共）、小川祥司（大日本住友製薬）、倉谷沙綾（オリンパス）、嶋田圭祐（大阪大）、中村紳一朗（麻布大）、原田伸彦（東北大）、廣瀬直毅（理研）、富宿誠吾（防衛医大）、鳥越大輔（熊本大）、山中仁木（信州大、アドバイザー）、古市達哉（岩手大、アドバイザー）

1) 委員長の代行について

- ・ 委員長都合により、理事会による審議及び承認を経て副委員長の鈴木 智が委員長代行に任命された。

2) 委員会開催

- ・ コロナ感染対応のため、メーリングリストによる本年度活動の検討を実施し下記のような活動とすることが決定した。
 - 1) 委員会体制について、本年度の改選は凍結し現メンバーにて来年度も継続すること。
 - 2) 試験問題作成についても、タイムラインを変更して作成を継続すること。
 - 3) 試験問題の公募は例年通り実施すること。

2) 活動報告

- ・ 2020-2021年度専門医試験の問題作成を開始（2020年2月27日）。
- ・ 公募問題の募集を実施（2020年3月23日）。
- ・ コロナ感染拡大に伴う委員会スケジュールの変更検討及び決定（2020年4月28日）。
- ・ 公募問題の委員会検討及び認定委員会総務部への提出（2020年7月27日）。

4. 試験実施委員会

委員長：池田たま子（新潟県保健環境科学研究所）

委員：伊藤拓也（旭川医大）

1) 委員会開催・活動状況

本年 9月の認定試験は中止となった。

5. 試験問題検討委員会

委員長：黒木宏二（日本たばこ産業）

委員：森松正美（北海道大）、佐々木一益（東北大）、竹内崇師（鳥取大）、奥村 浩（協和発酵キリン）、和田 聰（アステラス製薬）、高木善市（日本エスエルシー）

1) 委員会開催

- ・ 次回委員会の開催時期は未定。第 163 回日本獣医学会学術集会期間中の開催は中止。
- ・ 必要に応じて、主にメールにて開催（時期未定）。

2) 活動報告

- ・ 本年 9月予定の認定試験が中止となったため、当面の間、活動予定なし。

6. 学術委員会

委員長：伊藤麻里子（名古屋大）

委員：大和田一雄（岡山理科大）、佐々木宣哉（北里大）、加納 聖（山口大）、寺田 節（独協医大）、鳥越大輔（熊本大）

1) 委員会開催

- ・ 2021年5月に実験動物学会開催時に委員会開催予定。

2) 活動報告

- ・ 委員会についてはメールで開催。

第67回日本実験動物学会総会にて教育フォーラム（日本実験動物医学専門医協会共催）誌上開催

「実験動物医学の近未来—代替法とのハーモナイゼーション」

座長：黒澤 努（鹿児島大学）、佐々木 宜哉（北里大学）、伊藤 麻里子（名古屋大学）

1. 「日本動物実験代替法学会と3Rs：現状と将来」

酒井 康行（東京大学大学院工学系研究科 化学システム工学専攻）

2. 「動物実験代替法の課題」

秋田 正治（鎌倉女子大学家政学部 管理栄養学科）

3. 「動物実験代替法 3Rs Refinement を科学する実験動物医学」

黒澤 努（鹿児島大学）

7. 研修委員会

委員長：木村 透（山口大）

委員：高木久宜（浜松医大、副委員長）、安居院高志（北大）、和田 聡（アステラス製薬）、
今野兼次郎（ボゾリサーチ）、林元展人（実中研）、桐原由美子（島根大）、伊藤 格（日本バイオリサーチセンター）

1) 委員会開催

- ・ 2020年5月23日～25日に委員会開催予定であったが、中止となった。
- ・ 2020年9月8日～10日に委員会開催予定であったが、中止となった。

2) 活動報告

- ・ 2020年度に予定していた2回のウェットハンド研修会が新型コロナウイルス感染症拡大のため、開催中止となりました。9月に予定していた委員会の開催も中止となり、次年度以降のウェットハンド研修会を「II. イヌ・ブタの獣医学的管理」または「III. サル類の獣医学的管理」のどちらにするべきかを今後決めなければなりません。新型コロナウイルス感染症の推移を見極め、開催地、開催方法、人員などを改めて決めることになろうかと思われま

8. 国際渉外委員会

委員長：黒澤 努（鹿児島大）

委員：花井幸次（沖縄科学技術大学院大）、矢野一男（日本メドトロニック）、武井信貴子（イナリサーチ）、宮田桂司（獣医系大学間獣医学教育支援機構）、王 振吉（生理研）

1) 委員会開催

- ・ 2020年5月23日に開催予定の国際渉外委員会は、第67回実験動物学会総会の現地開催中止のため中止した。
- ・ 2020年9月に開催予定の国際渉外委員会についても、第164回日本獣医学会学術集会の現地開催中止のため中止する。

2) 活動報告

- ・ IACLAM理事として矢野先生、武井先生、花井先生が参加。矢野先生は、新年度執行部の事務総長（任期3年）として引き続き任に就かれることになった。
- ・ IACLAMではStrategic Planについて継続的に審議を行ってきた。意見の集約を図るためビデオ会議を実施する予定（2020年8月末～9月初旬）。

- ・ AAALACおよびIACLAM、並びにIACLAMを通じてWVAから関連情報を入手し、会員と共有した。

9. レジデントプログラム委員会

委員長：安居院高志（北大）

委員：高木久宜（浜松医大）、浅野 淳（鹿児島大）、矢野一男（日本メドトロニック）、富岡幸子（鳥取大）、小山公成（アステラス製薬）、横山政幸（武田薬品工業）、池田たま子（新潟県保健環境科学研）、木村 透（山口大）、奥田 陽（シミックファーマサイエンス）

1) 委員会開催

- ・ 実験動物学会、獣医学会共に対面の学会がなくなったために委員会は開催していない。来年度の実験動物学会の際に委員会を開催し、レジデントプログラムの最終形を策定する予定である。

10. 将来検討委員会

委員長：高橋英機（理研）

委員：内橋真悠（日本メドトロニック）、小久保年章（放射線医学総合研）、加藤啓子（京都産業大）、加納 聖（山口大）、菊月隆太（大正製薬）、高井 了（中外製薬）、新美君枝（理研）、林元詩織（日本たばこ産業）

専門医制度が発足して20年ほどが経過した。将来計画検討委員会では現在JCLAMが抱える課題を整理し、今後どのような組織体系が会員の良き拠り所となり生命科学研究の発展の大きく寄与できる集団となりえるのかを議論し、中長期的な「めざすJCLAM像」を策定し、その実現にむけた戦略を立てていきます。委員会での議論には、専門医の先生方のお考えを教えてください。アンケートの実施など会員からの御協力が不可欠です。ご協力下さいますようお願い申し上げます。

1) 委員会開催

- ・ 第67回日本実験動物学会学術集会の現地開催中止に伴い、現地での委員会開催は中止となった。
- ・ 第163回日本獣医学会学術集会の現地開催も中止に伴い、現地での委員会開催は中止とする。

2) 活動報告

- ・ 将来計画検討委員会委員は委員長を含めて当面9名の体制とする。
- ・ 新型コロナウイルス感染症対策に伴い、今後の委員会活動はWeb開催を取り入れて行う。

11. 認定試験ワーキンググループ

委員長：佐々木宣哉（北里大）

委員：長崎健一（日本食品分析センター）、廣瀬直毅（理研）、森松正美（北大）、古市達哉（岩手大）

1) 委員会開催

- ・ 今年度の委員会は開催しなかった。

2) 活動報告

- ・ JCLAM主催でLaboratory Animal Medicineの翻訳版を出版する件を、アドスリー、学窓社、文永堂、朝倉出版等に提案したが、採算が取れないとのことから、次回の委員会では、本計画の変更を検討する予定。

特集 1

「人脈そして実行と実現」

自然科学研究機構・生理学研究所

浦野 徹

私と実験動物の出会いは、今から半世紀位前の 1971 年に東京大学医科学研究所・獣医学研究部の門を叩いた時まで遡ります。獣医学研究部は実験動物の感染症をテーマとしており、大学院生を含めた 20~30 名のスタッフや関係者が、マウス、ラット、ウサギ、イヌ等の実験動物に関する種々の病原微生物について、微生物学的あるいは病理学的な面からアプローチしていました。当時の日本の実験動物領域は SPF 動物が初めて登場してきた頃で、動物種を問わず種々の感染症があちらこちらにみられており、言い方を変えれば感染症の宝庫でした。私に与えられた研究テーマはマウスの緑膿菌感染症でした。毎週開催された抄読会には、実験動物中央研究所のスタッフ数名も参加していました。このような環境でしたから、感染症をキーワードにして、実験動物領域の人達との出会いがあり、初めての人脈ができ、その中で大いに鍛えられました。今思えば、この時に出会った人達がその後の私の人生に大きな影響を与え、同時に私の財産にもなりました。この中でどっぷりと緑膿菌をテーマにした研究生生活を過ごし、そして博士号の学位を取得することが実現できました。

その後、1976 年に慶応義塾大学医学部の助手となり、1979 年に東京を離れて熊本大学の助教授として転出しました。熊本大学には定年を迎えた 2014 年まで在籍し、結果的に 35 年間の長きにわたり熊本で生活しました。その当時、九州の中で近代的な動物実験施設があったのは、九州大学・鹿児島大学・久留米大学の 3 つの大学のみで、熊本大学も動物舎と呼ばれる古びた建物があるのみでした。それまでの私の履歴からすれば、近代的な動物実験施設の建設は難題でしたし、さらに完成後の施設運営についても、SPF マウス・ラットの維持管理から始まって、果てはパストレラや気管支敗血症菌、コクシジウム罹患ウサギ、ブルセラ感染イヌに至るまで、SPF もいれば CV もいる、それどころか感染動物までいるというなんでもありといった状態なので、解決すべき案件が山積みでした。国内外の施設の視察をするなどして熊本大学に施設が完成してからのちは、九州には次々と施設が建設され、やがて全県に施設が完成し、専任のスタッフも着々と配備されました。それに伴い、九州実験動物研究会や日本実験動物技術者協会九州支部が組織され、九州は一つの大きな島国のせいも手伝って、九州の実験動物領域の人達との強い絆ができてきました。これらの人脈もまた、私にとっては大きな財産となりました。九州そして熊本時代の集大成は、2012 年に第 59 回日本実験動物学会総会の大会長になった時、九州でできた実験動物領域の人脈が手伝ってくれたことにより盛会裏に実現できたことです。

熊本大学在職中の 1992 年、国際協力事業団 (JICA) による日中政府間協力事業「中国実験動物人材養成センター」プロジェクトの国内委員会委員となったことがきっかけで、その後の長きにわたり、北京を中心に上海、広州、瀋陽等に在住の沢山の中国人の人脈ができました。JICA のプロジェクトでは私自身も多くの汗を流し、その結果として中国語による実験動物関係テキス

ト、これをもとにして日本語による「実験動物技術体系」（1996、アドスリー発行）が出版されました。その他に、中国の数大学との間には、熊本大学との部局間協定締結、九州実験動物研究会との学術交流など、様々な事柄が実現できました。中国の各地に40回前後出張したのも大きな思い出です。

さらに熊本大学在職中から現在所属する生理学研究所の時代に至るまで、以下に示す法律等の改正関連の仕事に携わりました。すなわち、文部科学省の科学技術・学術審議会の専門委員、及び環境省の中央環境審議会の専門委員に着任した2005年以降は、動物の愛護及び管理に関する法律の改正、実験動物飼養保管基準及び文科省の動物実験基本指針の制定に関与し、実験動物と動物実験のコンプライアンスについて行政、議員、愛護団体等との間で議論の場を持ちました。このことについては、多くを実行した割には実現できたことは僅かで、かなりの部分は未消化のまま現在も様々な面での対応を行っているところです。これらについて実行・実現できた内容は、シンポジウム等や論文として発表しましたが、その一部は2019年11月25日に私が環境省にヒアリングに呼ばれた際に作成した資料、すなわち日本実験動物学会の実験動物ニュース（2020、Vol.69, No.2）特別寄稿「環境省・第53回中央環境審議会動物愛護部会における実験動物関係のヒアリングについて」に記述してありますので、興味のある方はご覧下さい。

日本実験動物学会においては、2014年に私が熊本大学を定年退職して生理学研究所に在職したのと時を同じくして理事長職を拝命後、多くの理事や委員会委員の先生方のご助力を得て、理事長としての活動を展開しました。これらの先生方もまた私にとって大切な人脈となりました。本学会は、1951年に実験動物研究会として設立されて以来69年の長きにわたる歴史を有しており、私は丁度10代目の理事長を拝命しました。編集委員会、学術集会委員会、財務特別委員会、国際交流委員会、広報・情報公開検討委員会、動物福祉・倫理委員会、定款・細則・規定等検討委員会、実験動物感染症対策委員会、教育研修委員会、実験動物管理者研修制度委員会、人材育成委員会、将来検討委員会、動愛法等対策委員会、外部検証委員会を組織し、活動を行ってきました。今年の2020年5月、3期6年務めた理事長を辞するまでの間、以下の事業を実行・実現しました。無論これらの活動の全ては私個人が行ってきたものではなく、理事、委員会委員、常務理事、事務局の方々の力によるものです。

- ① 定期学術集会さらには維持会員懇談会や実験動物科学シンポジウム及び実験動物管理者等研修会等の開催
- ② 会誌及び関係学術資料等の刊行
- ③ 研究の奨励、研究業績の表彰
- ④ 海外の国際実験動物科学会議（ICLAS）やアジア実験動物学会連合（AFLAS）及び米国実験動物学会（AALAS）などの海外関連学協会との学術・情報交流の推進
- ⑤ 実験動物の福祉・倫理に関する対応
- ⑥ ホームページの整備
- ⑦ 国内の実験動物関連団体や文部科学省・環境省・内閣府等との連携
- ⑧ 動物愛護管理法の改正や各種規制の見直しへの対応
- ⑨ 環境省による実験動物飼養保管基準の解説書作成への関与
- ⑩ AMED・ナショナルバイオリソースプロジェクト「外部検証促進のための人材育成」課題の立案、応募、採択後の推進

⑪ 外部検証専門員の資格付与事業及び外部検証事業の実施

⑫ その他

この中で⑦以後の事業は、これまでとは異なった新たな案件で、緒に就いたばかりのものもあれば継続中のものもあります。これらはその全てを新執行部にバトンタッチしましたので、是非とも新しい感覚で展開して新しい時代を築いていって戴ければと思います。

私にとっての人脈とは人と人の繋がりを意味し、実験動物と動物実験に関連した領域の中で意見を戦わせ、共に実行し実現してきた仲間達で、私の人生の中で築き上げた大切な交友関係でもあります。タイトルに示した「人脈そして実行と実現」は私自身が常に心掛けてきたことです。次世代の方々に参考になれば幸いです。

(文中、お名前は全て記述しませんでした)

(2020年8月3日記す)

特集 2

「学位取得のススメ」

アステラス製薬株式会社研究統制部
小山 公成

1989年に製薬会社に入社して32年目になりますが、昨年博士（農学）を授与されました。この歳まで何度も挑戦しようと思いつきながら、先延ばしになっていましたが、ようやく機会に恵まれ取得することができました。博士号取得自体はとても感慨深いものですが、その過程で得られたものがとても貴重でした。本稿の執筆の依頼を受け、お読みになられている方の中にもチャレンジしてみようかと考えられている方も多いと思います、エールになればと考え、お受けすることにしました。ご参考にいただければ幸いです。

学位取得の内容

2019年9月に東京農工大学連合農学研究科生物生産科学専攻における3年間の課程を経て、博士（農学）を得ました。茨城大学農学部飼料学教室（豊田淳教授）に配置され博士課程を修了するとともに、学位論文を完成、博士号を得ることができました。

学位論文の内容は「環境エンリッチメントが実験動物に与える影響」をテーマとして、具体的には「社会的飼育がカンクイザルの行動、生化学パラメータ、腸内細菌叢に及ぼす影響」について研究したものです。動物のウェルビーイングを向上するための一つの方策として環境エンリッチメント利用が推奨され、その利用が拡大しています。多くの動物は高い社会性を持つので、飼育環境を富化（エンリッチ）することは、動物のウェルビーイング向上に欠かせないものになりつつあります。また高質な実験データを得るには動物のストレスを抑制し、安定した状態で供試することが重要です。しかしながら、実験動物における環境エンリッチメントの利用については、まだまだ研究途上であり、本来の目的とする動物実験への影響や生体への影響など不明な点が多くありました。そこで、動物実験に汎用されるカンクイザルを用いてエンリッチメントとしての社会的飼育（ペア飼育）が動物の行動・生体に与える影響を明らかにすることを博士論文テーマとして取り組みました。その結果社会的飼育は動物の異常行動を改善し穏やかにすること、体重増加を促すこと、生体内のいくつかのパラメータ（血中のカルシウム、コルチゾール、尿毒素質等）、腸内細菌総叢を変化させること、それらが互いに関連していることを見出しました。また1日7時間の社内的飼育により、実験プロトコルに配慮しながらストレスを低減し、試験中の動物のウェルビーイングを改善できることが示されました。

学位取得までの道のり

藤沢薬品に入社後4年目に母校の帯広畜産大学のお世話になった先生から、当時開発を担当していた動物用医薬品の抗生物質をテーマとした博士課程について誘いを受けましたが、残念ながら当時の会社の状況がそれを許さず、断念した経緯があります。その当時は開発品目が多く、とても忙しかったこととともに、その当時の私の部署にそのようなチャレンジをする雰囲気があったこともその要因だったと思います。

次にチャンスが訪れたのは、入社13年目のときで、子豚の成長促進用途でグルコン酸ナトリウムを飼料添加物として開発していた際でした。グルコン酸ナトリウムは所謂プレバイオティクスとして腸内細菌の一つである乳酸菌や *Megasphaera elsdenii* によく利用され、乳酸を介して最終的には酪酸に代謝され、大腸内の濃度を増加させます。酪酸は大腸上皮のエネルギー源として

利用され大腸生理の恒常性維持に必須な有機酸であることから、それを成長促進効果の作用機序と推定しました。その他野外応用試験等で得られた成長促進効果のデータを用いて共同研究員として所属していた京都府立大学で学位をと考えていました。当時家畜の抗菌剤の利用による耐性菌増加が世界的な問題となっており、天然成分であるグルコン酸ナトリウムの飼料添加物としての開発・上市は大変意義のあるものでした。しかしながら、所属していた動物用医薬品事業の外資系への売却により、医薬品研究の実験動物部門に移籍（グループ会社）となり学位取得は叶わない夢とあきらめていました。

その後、新しい職場にて実験動物の獣医師として勤務し、動物実験管理体制の改善、AAALAC認証取得、業界での活動など、たくさんの仲間と一緒にとても楽しくお仕事をさせてもらい現在に至っています。この間、実験動物部門における研究として、次亜塩素酸水の導入、金網底から床敷底ケージへの変更、LED照明の導入など多くの検討を動物管理メンバーとともに行いました。その一つが先に述べた学位取得に至った環境エンリッチメントに関する研究です。

もう忘れかけていた学位取得のきっかけは、15年以上前に手掛けたグルコン酸ナトリウム開発と一緒に研究した方と偶然お会いした時に、学位取得はもうあきらめたんですか？との言葉でした。ちょうどその当時手掛けていた環境エンリッチメントの研究でチャレンジできるかもしれないと考え茨城大学豊田教授をご紹介いただきました。ようやく3度目のチャレンジでの学位取得で、入社31年目でした。中には今更学位を得てどうするの？とか、もういいんじゃないの？そんなに頑張らなくても。との声もある一方で、人生はまだまだなんだから取得目指してぜひ挑戦しなさいと勇気づけてくださった方もいらっしゃいました。

私が学位を取得したかった理由の一番は、その当時の部署に後輩として獣医師の方々が入社されたことです。やがて彼らも学位取得を目指してほしい、その時に学位を取得した経験があれば先輩として取得を支援できると思ったことです。学位取得を経験することで得られるその価値や過程で得られる有形無形の財産とその経験を後輩に伝えることができればと考えていました。

学位取得の実際

学位取得には2つ道があって、博士後期課程に入学することと、ご自身の投稿論文をまとめて論文博士の道がありますが、私は前者の博士課程入学を選びました。入学金や授業料はかかりますが、学生として所属することでかけがえのないものを得ることになりました。それは、大学生として、授業やゼミを受けられたことです。大学の授業はととてもとても楽しいもので、夢中になって受講しました。また所属研究室の学生さんとも近く接することができ、30年以上前の大学生時代をもう一度経験することができました。また研究室を通じて多くの方との接する機会をいただけたのはとても良い経験でした。

授業自体はそう多いものではなく1-2年で多くの負担もなく受講、単位を取得できました。その後は先生と相談しながらの投稿論文、学位論文作成、学位審査となっていきます。2年次の終わりぐらいからは残り1年しかないプレッシャーの中で平日夜、休日をほぼすべて使い、ひたすら論文作成に明け暮れました。会社との両立もしなければならぬですし、学会・研究会活動や、会社の変革、家族の大きなイベントが重なる状況の最中でした。そのため学位取得は半年遅れましたが、入学から3年半で博士号（農学）を得ることができました。企業でのやりがいのある仕事や目標を完成させることも大変なことでしたが、また別世界の経験だったように思います。

振り返ってみて

学位は足の裏の米粒と聞いていました（とらなければ気持ち悪いが、ととても食えない）が、先にも書いたようにたくさんの有形無形の経験や感動が得られました。この経験は私のあとに続く方にもつながってきます。やはり何か一所懸命になって取り組んで、形になったことは私の人

生に中でもかけがいのないよろこびでもあります。

これから学位を目指される方々には、本稿を参考にしていただいてぜひチャレンジしていただければと思います。学位を取得したいと思い始めておおよそ 26 年、チャンスの神様は前髪しかもたない、何度も来ないといわれてきましたが、準備をしておけば 3 度くらいは来るんだなというのが実感です。志をもって毎日一所懸命頑張っていれば、思いは叶うことを実感しました。

私の場合、動物実験を支える基礎の部分の業績での学位取得でしたが、この領域（飼育管・施設管理、動物福祉、動物実験技術等）にはまだまだ沢山の研究課題が残っています。華々しい科学に関する研究は重要ですが、ぜひ日常のお仕事の中で、まだ目に見えていない課題を見つけていただき、解決のための検討・研究を行い、社会に発信していただきたいと思います。そこから大きな発見が得られる可能性があります。そして学位にもチャレンジしてほしいと思います。そのことで多くの経験を得ることができて、目線があがり、自分自身を勇気づけてくれます。

若い方は勿論、年齢の行かれた方でもあまりハードルを上げずチャレンジされることをお勧めいたします。（一つ下の入学者の中には 60 才を超えたかたもいらっしゃいました）

以上

事務局便り

会費納入状況とお願い

平成29-30（2017-18）年度より、会費の額が変更になりましたが、切り替え時に納入金額のミスが相次ぎ、一部会員に現時点でも納入金額に過不足があります。また、複数年分前納された会員も一部見受けられますので、納入時には必ず事前に[会員HP（https://jalam.jp/htdocs/）](https://jalam.jp/htdocs/)より**個人の会費納入履歴の閲覧をお願いします**。会費納入に過不足がある場合は確認できるようになっていますので、適正な金額を納入していただけますようお願い申し上げます。

なお、本年度の会費納入状況について、令和2（2020）年7月31日現在の会費未納者数は以下のようになっています。

- 1年未納 106名 （2019-20年度会費未納者）
- 2年未納 55名 （2018-19、2019-20年度会費未納者）
- 3年未納 19名 （2017-18、2018-19、2019-20年度会費未納）

会費未納者の方には、「会費納入のお願い」メールを改めて送付させて頂いていますが、下記口座に会費を納入して頂くようお願いいたします。

（1）郵便局振替

口座番号：00130-4-323981 口座名称：日本実験動物医学会

（2）ゆうちょ以外からの振込

金融機関名：ゆうちょ銀行 口座番号：0323981

店名（店番）：〇一九（ゼロイチキュウ）店（019） 預金種目：当座

なお、**3年以上会費を滞納**されますと（上記19名が該当）、日本実験動物医学会会則に従って本会を退会されたものとして、9月開催の理事会の承認を経て退会処理（除名処分）の予定です。

○日本実験動物医学会会則（http://jalam.jp/htdocs/index.php?key=mufz8nnl7-1309#_1309）

もし特別な事情で会費を納入できない場合（事務処理に振込用紙が必要等）には個別対応致しますので、会計・事務局担当理事（角田 E-mail: akakuta <at マーク> mail.ecc.u-tokyo.ac.jp）までご連絡を頂ければ幸いです。（<at マーク>部分は「@」に変換してお送りください）

〈編集後記〉

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、本号も学会活動が大幅に制限された中での発行となりました。ご執筆いただいた先生方には厚く御礼申し上げます。これから冬にかけて状況が悪化していく可能性もございますので、どうぞお体に気をつけてお過ごしください。

（情報・編集委員 SA）